

貸借対照表

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)	千円	(負債の部)	千円
I 流動資産		I 流動負債	
現金及び預金	158	未払金	12,412,657
売掛金	266,904	未払費用	56,854
前払費用	17,724	未払法人税等	28,180
繰延税金資産	123,249	預り金	3,112,761
短期貸付金	807,918	賞与引当金	80,583
未収入金	9,979,740	役員賞与引当金	13,287
その他	65	流動負債合計	15,704,324
貸倒引当金	△3	II 固定負債	
流動資産合計	11,195,757	繰延税金負債	5,979
II 固定資産		その他	58,631
1 有形固定資産		固定負債合計	64,611
建物	48,766	負債合計	15,768,935
工具器具備品	25,120	(純資産の部)	
有形固定資産合計	73,887	I 株主資本	
2 無形固定資産		1 資本金	10,000
のれん	22,620	2 資本剰余金	
無形固定資産合計	22,620	資本準備金	2,500
3 投資その他の資産		資本剰余金合計	2,500
子会社株式	4,473,506	3 利益剰余金	
前払年金費用	28,641	繰越利益剰余金	17,616
差入保証金	4,638	利益剰余金合計	17,616
投資その他の資産合計	4,506,786	株主資本合計	30,116
固定資産合計	4,603,294	純資産合計	30,116
資産合計	15,799,052	負債及び純資産合計	15,799,052

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定額法によっております。

②無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年以内）に基づく定額法によっております。

(2) 引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出にあてるため、当事業年度における支給見込額に基づき、当事業年度に見合う金額を計上しております。

③役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出にあてるため、当事業年度における支給見込額に基づき、当事業年度に見合う金額を計上しております。

④退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

ただし、当期末においては、前払年金費用が発生しているため、退職給付引当金を計上しておりません。

(3) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

①リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が新リース会計基準適用開始前の取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

②消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 当期純利益金額 10,100,201千円